

# 第5回噴火湾ホタテガイ情報(2014年) 発行日:平成26年6月6日

発行:函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場 協力:胆振・渡島北部・渡島地区水産技術普及指導所

ラーバは依然として小型が主体ですが、付着間近な個体(250 $\mu$ m以上)も確認されています。

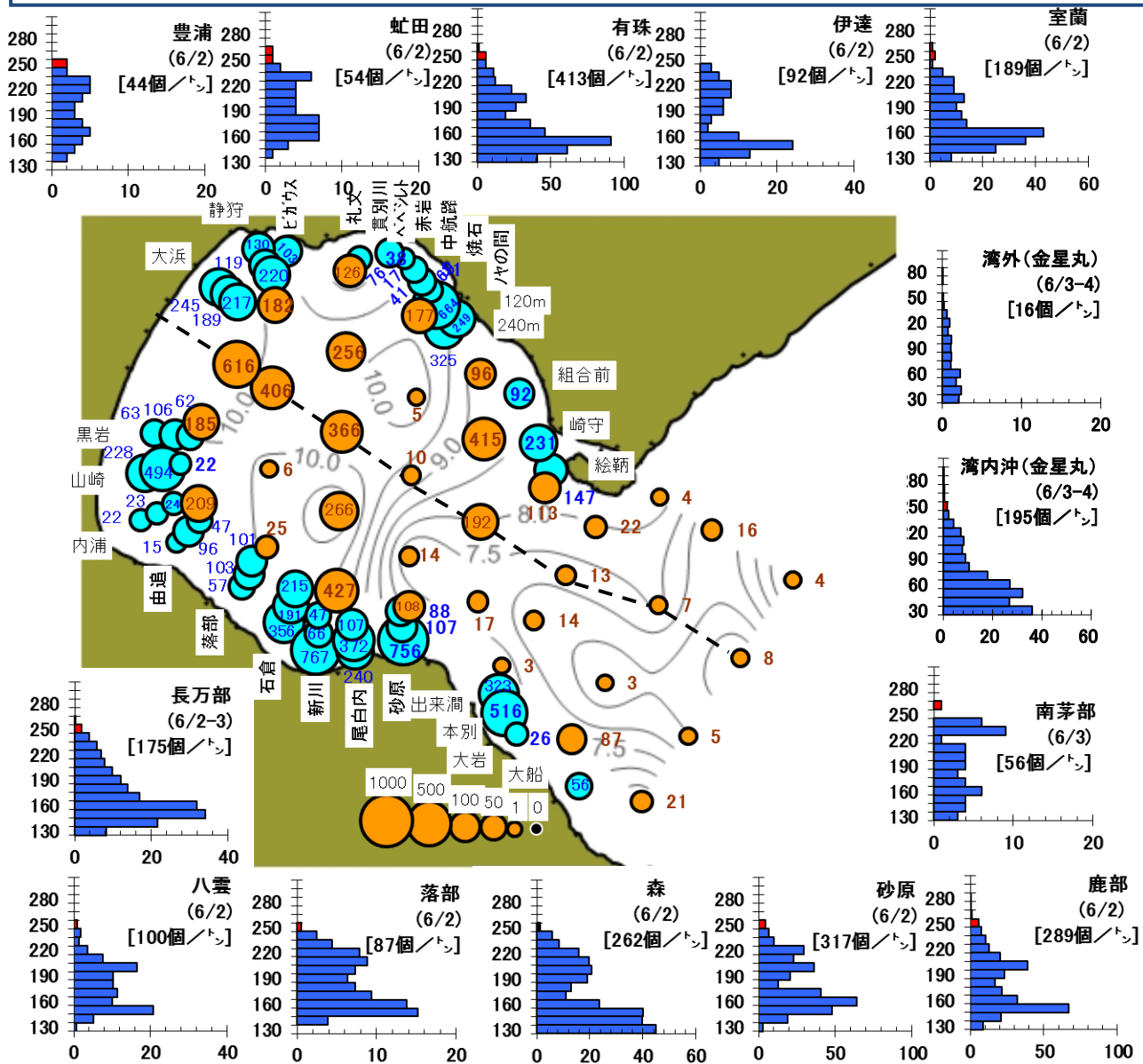


図1. ホタテガイラーバの分布状況と各地区におけるラーバ殻長( $\mu$ m)の組成(2014年6月2~4日)  
丸の大きさと下部の添付数字はラーバ密度(個/ト)、オレンジは金星丸調査結果、水色は各地区指導所調査結果、灰色曲線と数字は10m深における等水温線と水温( $^{\circ}$ C)。

(注: 湾内沖及び湾外のラーバサイズ組成に誤りがあったため修正しました。2014/07/08)

## 「概要」

6月2~4日に各前浜及び、湾内沖と湾外(金星丸)でホタテガイラーバ及び環境調査を行いました。ラーバ密度は前回調査(5月19~21日)に比べて、湾内沖ではほとんど変わりませんでした。沿岸域での密度は増加しています。ラーバの大きさは依然として小型が主体ですが、200 $\mu$ m以上の比率は前回調査よりも高くなっており、付着間近な個体(250 $\mu$ m以上)も確認されています。各地区水産技術普及指導所の「ホタテガイ採苗情報」では採苗器の準備・投入を呼びかけています。次回の全湾のラーバ及び環境調査は、6月30~7月4日に実施する予定です。

(連絡先: 函館水産試験場 佐藤・吉田・金森・渡野邊 TEL: 0138-83-2893)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>

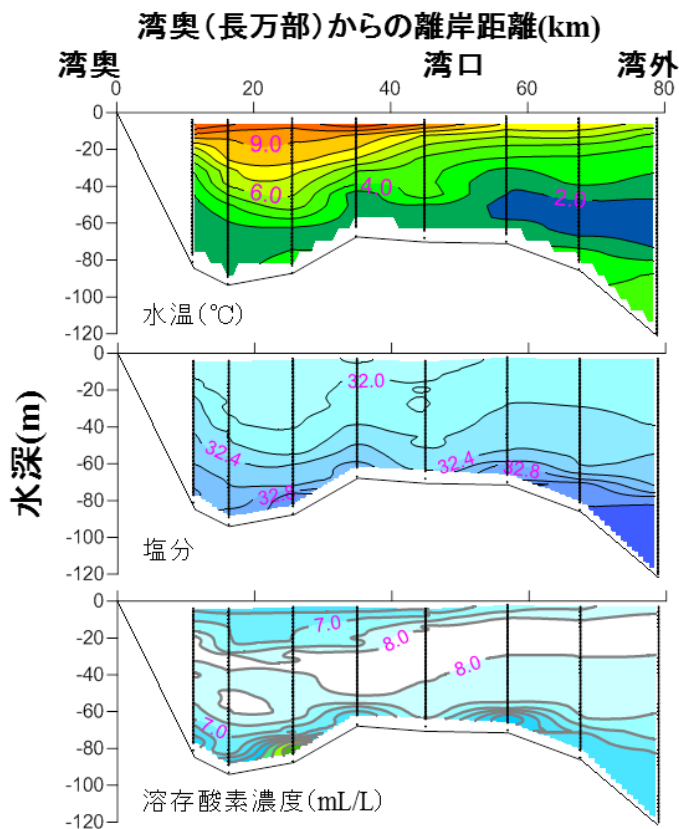


図 2. 噴火湾縦断面の水温分布  
(位置は図 1 の破線部)

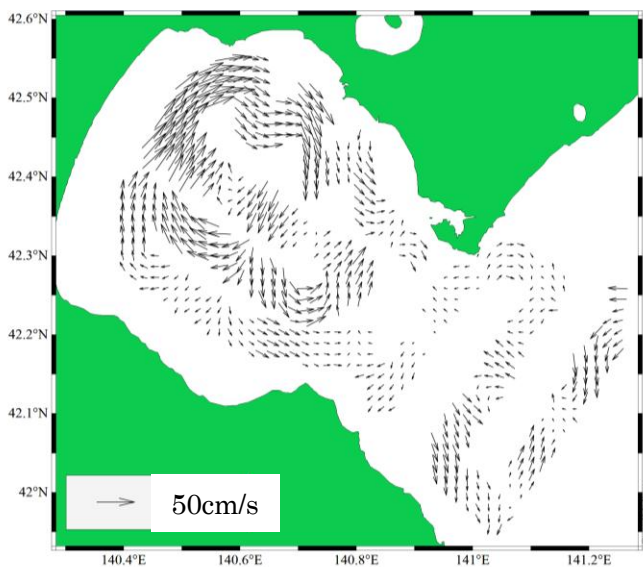


図 3. 噴火湾周辺 10m 深の流速分布

【環境情報】

湾内の海面水温は、気温の上昇に伴い 12～16℃と 5 月に比べて大きく上昇しています。しかし、沿岸部の 40m 以深には平年よりも冷たい 3℃以下の冷水が存在し、湾外にも冷たい親潮水(水温 2℃以下)が存在しています。そのため引き続き、表層水温の一時的な低下に注意が必要です(図 2)。

湾内最深部の溶存酸素濃度は 3.1mL/L と貧酸素状態に近い状況です(貧酸素の目安は 2～3mL/L)。しかし、低酸素水の分布水深は 80m 以深に限られており、ホタテガイの垂下水深帯(海面～30m)には十分に酸素が供給されている状態(7.0～8.0mL/L)です(図 2)。

現在、噴火湾内の湾奥には時計回りの渦が形成され始めています(図 3)。この渦は数日間で湾内を一周します。そのため、この渦が形成されると、前回の調査で見られたような分布の偏りは起こりにくくなり、ラーバは湾内の広い範囲に分散すると考えられています。